第 51 回インナーゼミナール大会

研究計画書

ゼミ名	宮川ゼミ	チーム名	餃子
タイトル	逃すな！新入社員　～大学生のグループ所属意識の研究～		
テーマ群	g）その他		
メンバー	奥住葵衣　大石紗矢香　正岡奏汰　井上悠太郎　岡田流河		
研究計画内容	【研究背景】 若者の離職率が高いことが社会問題になっている。そこで、職場でどのような人間関係を築けばこの課題を解決できるのかを考える。離職原因の 1 番の理由が人間関係という結果が報告されている。そこで複数人で過ごす上での人間関係について研究を行った。対象を数年後に社会人となる大学生にし、グループを形成し、人間関係を構築する中で、若者はどういったことで幸福または不快感をどの程度感じるのかを調査することで離職問題解決の糸口を見つけ出したい。具体的には、大学生のグループに属することでの幸福度とグループの所属意識をアンケート調査を通じて明らかにする。 【研究内容】 当研究では大学生が所属する「グループ」を明らかにするために SNS のグループに注目する。そこからグループの種類や人間関係、親密度を数値化したい。具体的には、①「グループ」という曖昧な言葉では誤解を招く可能性があるため、調査対象には SNS ツールの LINE 上のグループを想定してもらう。理由は日本国内 20 代の 96%が利用しているツールであり、ラインで作られているグループは実際に存在するグループと非常に近いと考えられるからである。さらに、②アンケートにてグループで過ごす際に、何かしらの自分が取った、もしくは相手から取られた行動が親密度、幸福度、嫌悪感にどの程度相関があるのかを調査する。また、生きる上での知り合いの多さや関わる頻度は、対人上での幸福感・嫌悪感に相関関係があると考えるため、ラインの登録者数ややりとりの頻度も調査していく。その上で、③親密度・幸福度・嫌悪感の度合いを 5 段階で数値化し、どのようなグループに所属することで幸福度が上がるのか、どのような行動や人間関係が重要な役割を果たしているのか、グループ内の人々やグループ外の人々にどのような差別意識をもつのか、などについて、回帰分析を用いて研究していく。最終的には、④どのようにすればより良い関係の構築をできるのかを導き出したい。 【期待される効果】 複数人で過ごす際に若者が何を重要にしているのかを知ることで、上司の職場での接し方の改善に繋がる。また、若者も人と接する上での態度を顧みる機会となるだろう。双方の意識改革が離職率改善に繋がることが期待される。 【参考文献】 内田，遠藤，柴内（2012 年）「人間関係のスタイルと幸福感：つきあいの数と質からの検討」『実験社会心理学研究』第 52 巻第 1 号		